

## 2005年3月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

北半球500 hPa 高度では、アイスランド付近に顕著なブロッキング高気圧が見られ、その南側の30~50°N 付近の大西洋では顕著な負偏差が見られた。ヨーロッパ東部からロシア西部にかけては-120 m 以下の顕著な負偏差に覆われた。中央アジアからモンゴル付近にかけては正偏差、東シベリア南部から華中、日本にかけては負偏差となり、東半球側の40~60°N では正偏差と負偏差が波列状に交互に並んだ。

熱帯の対流活動は、太平洋赤道域の南半球側では平年より不活発、北半球側では平年より活発だった。インド洋東部からインドネシア付近にかけては、月の後半に赤道季節内振動 (MJO) の活発な位相が通過し、平年より活発となった。一方、太平洋の赤道収束帯 (ITCZ) では平年よりやや活発、南太平洋収束帯 (SPCZ) では平年より不活発だった。

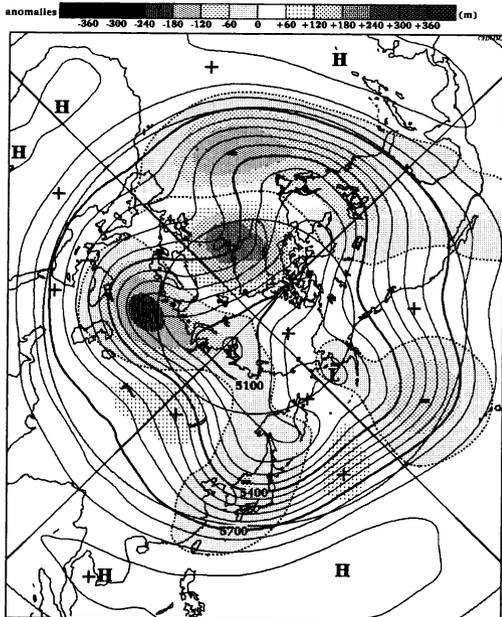
850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、熱帯域で明瞭な循環偏差は見られなかったが、インド洋から太平洋西部にかけて、月の前半に高気圧性循環偏差、後半に低気圧性循環偏差が卓越した。

SOI (南方振動指数) は+0.2となり、前月の-2.2から平年並の値となった。

### 世界の天候

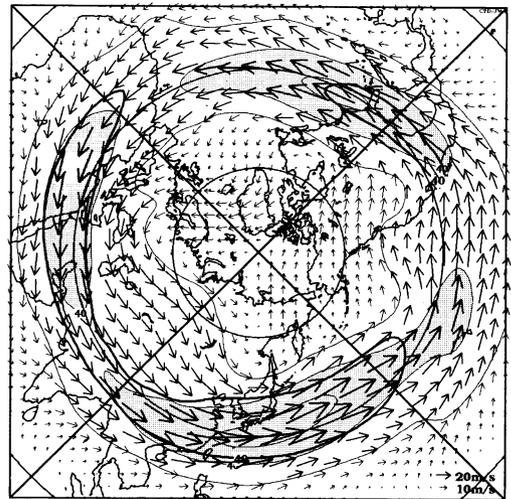
- ① 中国北東部の少雨
- ② 朝鮮半島から華南の低温  
韓国東部では上旬に記録的な大雪に見舞われ、交通障害などが伝えられた。
- ③ 西シベリアからロシア西部の多雨
- ④ 中央アジアの高温
- ⑤ パキスタンからアラビア半島東部の多雨  
パキスタンでは上旬初めと中旬から下旬に洪水に見舞われ、数十人が死亡したと報じられた。アフガニスタンでは中旬から下旬に大雨や融雪に伴う洪水に見舞われ、200人以上が死亡したと伝えられた。また、イランでも洪水の被害が報じられた。
- ⑥ ヨーロッパ北東部の低温
- ⑦ 紅海周辺の高温
- ⑧ アフリカ西部の高温
- ⑨ マダガスカルからモーリシャスの高温
- ⑩ 五大湖周辺の少雨
- ⑪ 南米北東部の高温
- ⑫ メラネシア東部の高温

(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 村上喜章)



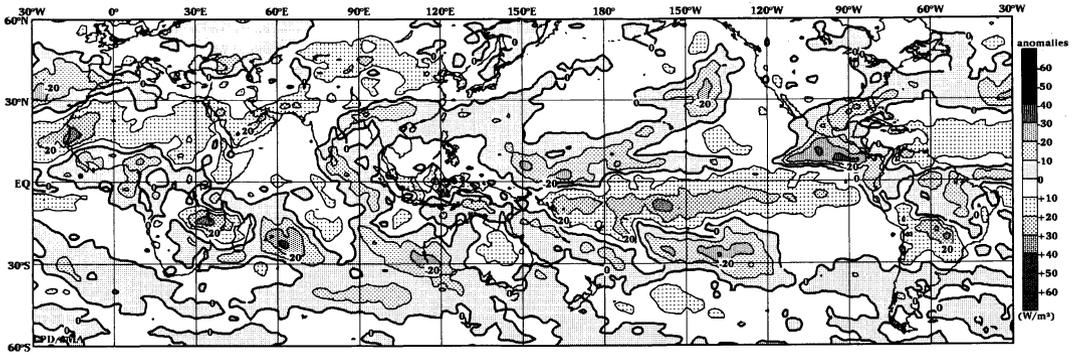
2005年3月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は60 m. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。

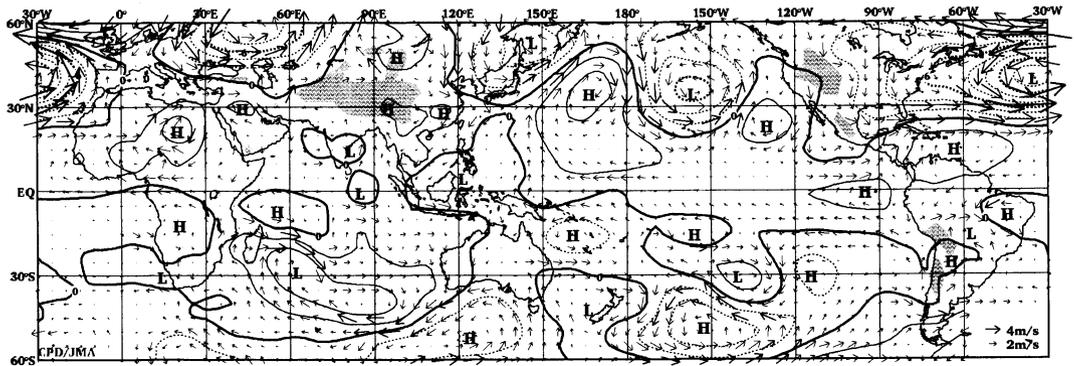


2005年3月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

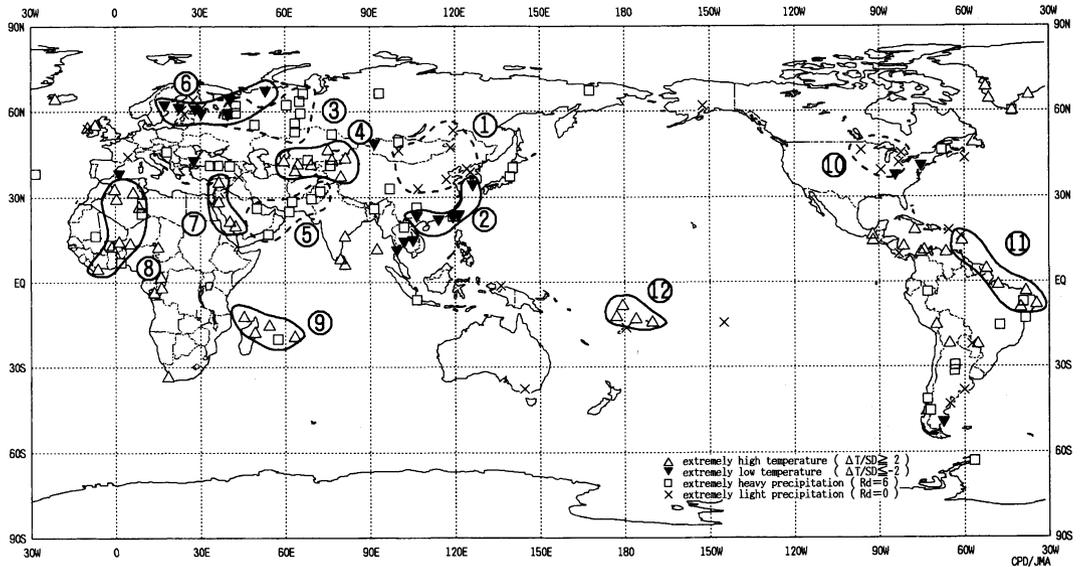
等値線間隔は20 m/s. 陰影部は40 m/s以上. 太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2005年3月の月平均外向き長波放射量年偏差  
 等値線間隔は  $10 \text{ W/m}^2$  で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはCPC/NCEP/NOAA、平年値は1979~2000年のデータから作成。



2005年3月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル  
 流線関数の偏差の等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2005年3月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。図中の番号は本文中の番号と対応している。